

## 資料と公共性 : 2021年度研究成果年次報告書

岡崎, 敦

九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

池上, 大祐

琉球大学国際地域創造学部 : 准教授

今井, 宏昌

九州大学大学院人文科学研究院 : 専任講師

多川, 孝央

九州大学情報基盤研究開発センター : 准教授

他

<https://doi.org/10.15017/4772780>

---

出版情報 : 2020-03-07. 九州大学大学院人文科学研究院

バージョン :

権利関係 :

## 2. 「公共史」研究会

日時：2021年7月24日（土）13時30分~17時

会場：九州大学伊都キャンパス イーストゾーン E-C-203 会議室、およびオンライン

### 報告

剣持久木「公共史の射程—書物、映像、博物館をめぐる—」

剣持久木氏をお迎えして、「公共史」をテーマとする研究会を開催した。今回の研究会は、九州大学文学部における集中講義のために、剣持氏が来福された機会をとらえて行われた。集中講義のテーマは「公共史の実践をヨーロッパと東アジアで考える」であり、授業期間中には、佐賀県唐津市の名護屋城博物館を訪れる実習も設けられた。そこでは、博物館見学に先立って、同博物館の安永浩学芸員による博物館解説、さらには大分芸術文化短期大学の朴貞蘭准教授による講演が行われ、受講生との間で質疑、意見交換が交わされた。大学での正規教育の一環として「公共史」が講じられるとともに、その具体的な実践の場とも言える博物館において、専門家による講演が準備されるという企画は、剣持氏ご自身によるものである。この試み自体が「公共史」の一つの実験であるともいえよう。剣持氏には、あらためてご厚意、ご配慮に、厚く御礼申し上げます。

以下では、剣持氏ご自身による論考に加えて、二篇の関連論考を掲載する。剣持氏の論考は、当日の報告とは別に、今回の報告書のためにあらたに書き下ろされたものであり、剣持氏の年来のお仕事の集大成ともなっている。他の二篇はいずれも、九州大学に所属する学生の手によるものである。平田哲也氏（大学院人文科学府博士後期課程）は、剣持氏の授業および研究会報告に対する「学生の視点」から寄せられたコメントである。大学教育と「公共性」との関係が正面から問われる内容となっている。いま一編は、青山詩乃氏（文学部学生）による、「公共史」、特に視覚メディアによる歴史実践に関する学界動向論文である。この論考は、青山氏が、2022年1月に九州大学文学部に提出された卒業論文「パブリックにおけるフランス革命の表象—ミュージカル『1789—バスティーユの恋人たち—』を事例に一」の第1章をもとに、あらたに書き下ろしたものである。卒業論文は、文学や演劇、映画を始めとした大衆メディアにおける革命表象を、19世紀から現在までの長期にわたって、同時代の政治・社会状況や学界動向との関係で検討するとともに、2013年に初演されたミュージカル作品に現れる革命イメージを、歴史的に位置づけようとしたものである。「公共のなかでの歴史」を歴史学的に研究する斬新な試みであるが、ここでは、個別実証に先立って、視覚メディアを中心とした「公共史」研究の動向を総覧した部分のみを寄稿いただいた。全体を通して、歴史学、歴史実践のあり方を、アカデミアの外

との関係で再検討しようという、世界と日本の「公共史」の動向への理解が深まることを期待している。